

IchigoLatte reference 1.0.1

ms

- [latteオブジェクト メンバ関数]

```
* scroll(v, [r])
指定した方向に画面をスクロールする。
v==0 : 上
v==1 : 右
v==2 : 下
v==3 : 左
rでローデートを指定する。
r==0 : ローデートしない[デフォルト]
r==1 : ローデートする

* video(v)
NTSC信号を切り替える。
v==0 : OFF
v==1 : ON
v==2 : ON (反転)

* setTout(f, d)
dミリ秒後に関数fを呼び出す。
例)
| function onTime(){...}
| setTout(onTime, 1000);

* setTout()
setTout(f, d)で設定した内容を解除する。

* setKprs(f)
キーが押された時に関数fを呼び出す。
例)
| function onKey(k){...}
| setKprs(onKey);

* setKprs()
setKprs(f)で設定した内容を解除する。

* setBprs(f)
ボタンを押した時/離れた時に関数fを呼び出す。
例)
| function onBtn(b){...}
| setBprs(onBtn);

* setBprs()
setBprs(f)で設定した内容を解除する。

* input()
キーボードからの入力を数値で返す。

* bps(v)
uartの伝送速度を設定する。[デフォルト:115,200]

* uart(v, ...)
uartにvを書き出す。
第一引数のvが数値の場合、第二引数以降の数値を1バイトのバイナリとして送信する。
第一引数のvが文字列の場合、第二引数以降の数値を文字列に変換して送信する。

* uart()
引数を省略した場合は受信したデータを数値で返す。
受信するデータがない場合は-1を返す。

* i2cw(a, ...)
指定したアドレスaのI2Cデバイスにデータを書き込む。
引数"..."の内容がデバイスに送信される。

* i2cr(a, ...)
指定したアドレスaのI2Cデバイスからデータを読み込む。
関数から返されると、引数"..."に値がセットされる。
```

ms

- [latteオブジェクト メンバ関数]

```
* exit(v)
プログラムを終了する。

* lrun(n)
EEPROM'@n'の内容を'.'へ上書きし、実行する。
備考:
| この関数を実行すると'.'の内容が消去される。

* env(n)
環境変数にnをセットする。
環境変数は他のプログラムから使用できる。

* env()
環境変数を返す。

* mem(v)
vが数値の場合、そのアドレスのバイトを返す。
vが文字列の場合、次のアドレスを返す。
v=="f" : フォントデータのアドレス。(読み出し専用, 8バイト * 256文字)
v=="." : ファイルアドレス。(読み出し専用, 2KB)
v=="s" : 描画領域のアドレス。(読み出し/書き込み, 32*24バイト)
v==" " : フリーRAMのアドレス。(読み出し/書き込み, スタックの頂上まで使用可能)
例)
| var fm = mem("f"); // フォントデータのアドレスを取得
| log( mem(fm+(8*0x41)+0) ); // フォント'A'(0x41)の0行目

* mem(a, v, ...)
アドレスaのメモリにvを書き出す。
例)
| var sm = mem("s"); // 描画領域のアドレス
| mem(sm, 0x41); // 画面(0,0)に'A'を出力

* mem()
フリーRAMにあるARM_Thumbコードを呼び出す。
R0レジスタの値が返される。
例)
| var free = mem(" "); // フリーRAMのアドレスを取得
| mem(free, 0x70, 0x47); // 処理を返すだけ
| mem(); // コードを呼び出す

* ver()
IchigoLatteのバージョンを取得する。
新しいバージョンほど番号が大きくなる。
```

- [Arrayメンバ]

```
+ 配列を作成することができる。(1つのみ)

* Array(v)
長さvの配列を作成する。
例)
| var a = new Array(10);

* Array()
最大の長さを持つ配列を作成する。
例)
| var a = new Array();

* length
配列の長さを返す。
```